

環境支払交付金のハードル高く GAP義務づけ、研修と確認書

水田の冬季湛水（冬水田んぼ）や堆肥散布など、環境に配慮した農業に取り組む生産者を支援する「環境保全型農業直接支払交付金」（最高額10万8000円）について、今年度から交付要件が見直されました。

実施」を義務付けました。環境に配慮している生産者に、それ以上のハイレベルな実施を求める内容です。

研修と「確認書」

これまでの、エコファーマーの認定をうけている農業者か、特別栽培認証を受けているほ場が交付要件でした。今年度の見直しは、交付対象のエコファーマーを外し、代わりに「国際水準の農業生産工程管理（GAP）」の

エコファーマー認定をはずし

GAPは、環境保全や食品安全、農家の労働安全など農業の生産工程管理を義務づけています。環境支払の交付を受けるには、GAPの認証取得は必要ありませんが、GAPに関する研修と、研修で学んだことに基づき実施した内容などを記載する確認書を、市町村に提出することが必要となります。

そのため、市では6月13日の藤島会場をかきりに29日まで、各地域で6回GAPについての研修を実施しました（研修費は無料）。市では、GAP研修に出席できなかった人に、今後庄内での広域研修の参加を呼びかけたいとしています。

世界に輸出できない

GAPには、点検項目が約230項目ある「グローバルGAP」、約160項目の「アジアGAP」、約130項目の「JGAP」、約50項目の「山形県版GAP」があります。認証取得のための審査費用が「グローバルGAP」で25～55万円、「アジアGAP」15万円、「JGAP」10万円などがかかると言われます。

「これを取らないと世界に輸出できない」と言われ、ハイレベルなGAP推進が加速し、環境保全型農業へ取り組む裾野が狭められなにか危惧されます。



最初のGAP研修会場となった藤島地区活動センター（6/13）144人の農業者が出席しました。（写真：市農政課）

【絵を描く】 棚田の苗

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

羽黒町の向山集落から桜ヶ丘に通じる坂道からの眺望は目を見張る。

5月——ゆるやかに広がる棚田に水が入り田植えが始まると、田起こし前の土色から淡く緑がかつた風景に変わってくる。

水田には遠くの林の影が映って、えも言われぬ日本の風景が現れてくる。

その背後には庄内平野の水田が広がり、集落が点在し、市街地が塊り、母狩山、金峰山、庄内砂丘がかすむ。

棚田の水田——「くろ」の際まできっちり苗が並び、あぜ道によって整然と区画されて広がる。夕方になると陽をうけて輝く。

その苗田が一面濃い緑の絨毯に変わっていき、その上を風が渡ってそよぐ光景もまたいい。そして、夏に向けて黄金の色へ、収穫へと移っていく。

その水は月山山系から流れ来る雪解けの水、命を育む恵みの水だ。四季折々の棚田の風景は心を和ませる。

しかし、積雪1メートルを超えるこの地域「美しい」といつて楽しんでばかりはいられない。厳しい自然とたたかって開拓してきた百姓たちの協同の知恵と労苦の歴史に思いを馳せるのだ。

※世の中には人工の色が氾濫しているが、自然の色ほど美しくて深く人を魅するものはない。

植物はもちろん、土や空、雲、雪、動物たちも。田んぼの色も然り。

それは「生きていく」ことにつながっているからではないかと思う。色彩感を養うには自然をよく見つめることだ、というのが私の持論だ。



昭和も遠く50 中町・成澤功

今間は工場を移転し、経営陣を一新し今も頑張っている。

田の草取り

数日前、自転車で行くのが農業試験場の脇を通った。

稲田の中で男女5人が田の草取り作業中だった。

稲の間に生えてくる雑草を素手で抜き取って水田の土中に埋め込む手順である。

何十年振りかで見ると、のどかな農村風景だった。

今時こんなんびりした農作業を、普通の農家はやっていない。春先、苗代に稲の種を播く、芽が出る。

5月中旬頃から鶴岡の天神祭の頃にかけて苗取り、田植えが始まる。泥田に裸足で入り作業に専念する。

次は田の草取り、やがて手押し除草機作業。

いくらか時を経て稲株の隙間にひよんひよんと伸びた稗取り。

もうその頃には水は田に張っていない。やがて稲穂が顔を出す。

小学生などを動員して蝗捕め。

小中島にお住まいの鈴木隆さんは、その小学生時代に仲間の捕る量の3倍も捕まえ常に学年トップだったとか。さすが後年の風絵の名手だけに手先の器用さは抜群だったんですね。

間もなく農作業の全面機械化時代に入りました。農機専門の今間製作所が県内メーカーのト

ップ組に躍り出た。

何十年か経て農業の衰退と共に倒産の憂き目を見た。

数多くの社員の中から鶴岡市議会議員に2人同時に当選したり、労働組合の力が強く、一方経営陣の時代認識は甘かったのではないかと思う。



コンマのハーベスタは大ヒット

「一つの時代は終わったが 富塚氏「お別れの会」に参列し

元鶴岡市長の富塚陽一氏が6月18日に87歳で逝去され、「お別れの会」が1日、昭和町のセシモ二ホールで開催され参列させていただきました。

新市4年間は議員でなかつたので、会話を交わすことは無かつた。平成大合併を進め、一つの時代は終わったが、合併の痛みは現在も続いている。富塚氏は「大学誘致で酒田市と張り合つてもダメだ。鶴岡は入学

院と慶心に研究所をお願いし、一等地を差し出すこととした」と語つたこと(榎本氏)。

慶應元副研は、「地域に経済効果を言われるどころが、そんなことより世界一の研究レベルで鶴岡の価値を高めることだ」と言われたこと(富田氏)。

市町村合併をしなければ、市単独で慶應先端研に年3億5千万円もの補助金を支出することは出来なかつた。(加藤弘一)

吉村知事、国に最低賃金ランク制度の見直しから廃止要請

「あらためて憲法を学ぶ 青山崇

「都市部と地方の所得格差の拡大が地方の人口流出を招いている」として、これまで、国へ見直しから一歩進めて廃止要請となつた。

最低賃金とは、「賃金の最低額を保障することにより、労働条件の改善を図り、もつて、労働者の生活の安定」

などを目的に最低賃金法で定められたもので、ランク制度とは都道府

県をA〜D段階にランクづけし、Aランクで最高の東京都958円(時給)、Cランクは最低737円、山形県は739円である。

時給格差が221円に広がり、低い県から

高い県への労働者の転出などの問題が起り、冒頭の発言になつたのである。

その背景には、県労連が十数年来、最低賃金ランク制度の廃止と全国一律最低賃金(時給・1500円をめざし当面1000円)実施を、国に県に要請するよう求めてきた運動がある。

同一労働同一賃金が原則であり、例えばコンビニ労働者が働く県の違いで最低賃金が違うことは全く不合理で



「だんこぬけ」

何かの行き違いで、明日にも戦争が起きるのではないかと思われ、憎まれ口をきいていた米朝の2人が、がつちりと握手をした。その上、お互いが人間性を褒め合っている。その時の署名にナンダカ

ンダというヤツラがいるが、誰が何と言おうとも戦争の危機は遠くなつた。それでいいじゃないですか。制裁と言言葉は、使いたくないとトランプさん。

しかし、国連が決議した制裁とヤラはまだ生きているもののようにだ。だから日本が、「こつそり油を引き渡していたつけ」と国連に知らせたと28日の新聞に出ている。これがかつての新聞には、トランプさんに教えたとしていた。つまりは、点検の密告と読めるものだったのだ。それは、

ある。

県の人口は、2018年5月1日に109万2632人、2010年5月1日は119万8710人であった。8年間に10万6千人ほど減り、年間1万3千人ずつ減っている。

その原因は「少子化」もあるが、この問題の取組みも重要である。最高裁は、さる6月、

非正規社員と正社員の通近手当などの待遇差は「不合理」との初判断を下した。さらなる格差是正が望まれる。

話し合いを否定し圧力一辺倒の首相の心に添つた表現だろう。

▲その首相は、世界俯瞰外交と称し、北のはずれまでもにも圧力を語つて回つたが、大変なことがあつたよ・とは、6月22日のある新聞のトップ記事だ。

▲圧力にそんなに懸命な日本が、国連決議に反することをしていたのではないか。国連安全保障理事会北朝鮮制裁委員会の専門家パネルの調べで判明したと。北朝鮮に所在する日本の10社に、出入金を伴う活動の形跡が見つかつたと言ふのだから大変だ。金融庁が、全銀行に報告命令を出したとの報道だったが、ほかのマスコミには気がつかなくなつたな。

▲どうするどうする・圧力一辺倒の安倍さん。トランプさんも知っているといるよ。こんな事態をこの辺では、「だんこぬける」と言うんだが。

(石川)